

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2020年7月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール 2022年開催決定!

第7回仙台国際音楽コンクール 入賞者に聞きました「いま、そしてこれから」2回目

6月号に引き続き、第7回仙台国際音楽コンクールに出場し、審査委員や多くの聴衆の前で熱演を披露してくれた入賞者の皆さんから届きましたコンクール後の、「いま、そしてこれから」をお届けします（以下の質問への回答形式です。掲載順は順不同です）

Q①: 仙台国際音楽コンクール後は、どんな生活・音楽活動をしていましたか。

Q②: 新型コロナウイルスの感染防止による音楽活動上の制限を受けましたか。そのような状況であなたがはじめたことや、やってみようと考えていることはありますか。

Q③: 昨年のコンクール中、またはコンクール後の動画配信であなたの演奏を聴いていた方たちへメッセージをお願いします。

ダリア・パルホーメンコ Daria PARKHOMENKO

Q①: ハンブルグ音楽演劇大学でマスターの勉強中だった私は、リサイタルのコンサート経験は豊富にありました。しかし、コンクールに向けてやるべきことの第1目標は、オーケストラとの共演曲3曲をかなりの短期間で集中して準備することでした。ピアニストにとってオーケストラとの共演は非常に魅力的で得難い経験です。今回、私が難しいと感じたことは、その3回の演奏の間、気持ちをうまく切り替えることでした。ピアノ協奏曲のうち2曲は、はじめてオーケストラと共演する曲でした。でもステージでは、自分の持てる最高の演奏をするとともに、指揮者、オーケストラと心を通じ合わせ、一つの演奏を通して一体となり、感動的な雰囲気を作り上げることに集中していました。指揮者の広上淳一氏と、素晴らしい仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演できて本当にうれしかったです。この経験から、私の演奏はそれ以前といろいろな面で変わってきていると実感しています。

Q②: 「外出制限」はすべての人々のために必要な措置であると思います。ただし、特に音楽家にとっては厳しい制限であることも確かです。私のすべてのコンサートが開催日程を変更することになりました。でも、それで浮いた時間をできるだけ有効に使うようにしています。一番いいことは、新しいレパートリーを増やせることです。普段なかなかできないので、たくさん曲を練習しました。その他、音楽を聴いたり、本を読んだり、勉強や自然の中で過ごすことなど、コンサート中心のスケジュールではできなかったことをしています。そんな時間を1人でいると、音楽を通して多くのインスピレーションが湧いてきたり、将来の目標や計画について多くの示唆を得ることが出来ます。今、ライブ演奏や屋外コンサートでの演奏依頼、いくつかのオンラインコンサート向けのビデオ録画依頼等が来ています。それらは一般公開の予定です。そのような機会を通じて、演奏を披露できることが待ち遠しいです。今このような状況に置かれて、演奏家にとって聴衆との関わり合いがどれほど重要かということに改めて気づかされました。「演奏」はお互いの存在なくしては成り立たないのです。以前のように、演奏家と聴衆がホールでコンサートを心ゆくまで楽しめる時がくることを願っています。

*私がオンラインで演奏したものをご覧ください。【リンク先】<https://youtu.be/WdWbPmKHnOE>

*短いビデオですが、仲良しの児嶋頭一郎さんとオンラインで撮ったものです。【リンク先】https://youtube.com/watch?v=1_MuyS7bo2Y

Q③: 仙台への旅は今まで経験した中で最も思い出に残る最高の旅のひとつとなりました。日本は夢のような国で、まるで自分の家にいるような気がします。日本文化、食べ物のすばらしさなどに加えて、聴衆の皆さんとのコミュニケーションが一番忘れられない思い出です。私はすべての自分の演奏をよく覚えていて、あの忘れられない瞬間を思い出すと、とても懐かしい気持ちでいっぱいになります。親切にいただいたホストファミリー、運営スタッフ、演奏をお聴きいただいた皆様、コンクールの期間中私を支えてくださったすべての方々に心から感謝しています。日本の聴衆の皆さんは心暖かく、親切で一生懸命耳を傾けてくれるし感性も豊かです。多くの人たちに私の演奏を楽しんでいただけたのかと感動しました。また日本に行けることを楽しみにしています。そして日本で演奏できればとてもうれしいです。



友滝 真由 TOMOTAKI Mayu

Q①: 慌ただしくヨーロッパに戻り、夏の音楽祭に参加したり、ベルリンで室内楽の合わせやコンサートをしたり、コンクール以上に忙しい日々を過ごしていました。奈良の普通高校を卒業し、そのままドイツの大学に進学したので、国内の音楽関係のお知り合いがあまり居なかったのですが、コンクールをきっかけにたくさんの方と知り合うことができ、新しいご縁に感謝しております。

Q②: 私の通うベルリン芸大は、この夏までは全てオンラインレッスンを行っています。ベルリンで予定していたコンサート、スイスやフランス、スペインでの音楽祭等全てキャンセル又は延期になり、こんなに予定の無い期間を過ごすのは初めてです。この状況になって、音楽は人と人との繋がりが無いと成り立たない芸術なのだという事を痛感しています。この自粛期間中は、取り組みたかったバッハの無伴奏作品や、様々な曲にじっくり向き合う時間が取れたり、自分のために時間を使える贅沢を楽しんだり、10月に予定されている仙台フィルさんとのコンサートが無事開催される事を願いながら毎日過ごしています。大学の指揮科の友達に誘われて参加したりリモートオーケストラ等、オンラインでのプロジェクトに参加したりしています。【リンク先】<https://youtu.be/1LmGIDKEbpQ>

Q③: 動画配信で、場所に関わらず演奏を聞いていただけたことは、私たち演奏家にとって大きな喜びです。今は世界的に大変な時期ですが、こんな時にこそ、音楽、文化が私たちの生活を充実させてくれるはずです。コンサートが開催できる日を楽しみに、一緒に乗り越えていきましょう!



裏面へ



■お問い合わせ先 / 公益財団法人 仙台市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: <https://simc.jp>

平間 今日志郎 HIRAMA Kyoshiro

Q①: コンクール後は少しずつ演奏の機会が増え、ソロだけではなく室内楽を勉強する機会もいただきました。基本的にはアメリカでの生活ですので、それらのコンサートの準備をしながら勉学に励んでいました。

Q②: 「シャネル・ピグマリオン・デイズ2020」をはじめとした、出演予定であったコンサートが延期/中止になりました。またアメリカでは3月ごろからレッスンを含む大学の授業の全てがオンライン授業になりました。生の音との違いはありますが、このような状況でもレッスンを受けることができることに感謝をしています。演奏活動が制限される中での取り組みとして、シャネル・ピグマリオン・デイズ2020参加アーティストの紹介ビデオシリーズがネクサス・ホール ウェブサイトに掲載される予定です。インタビューや演奏動画もあるので是非チェックしてみてください。公開期間(予定) 2020年7月23日(木・祝) 10時~7月26日(日) 10時 [【リンク先】https://chanelnexushall.jp/](https://chanelnexushall.jp/)

Q③: 次に皆様の前で演奏する時によりパワーアップした姿をお見せできるよう、日々自分自身の音楽と向き合っております。終わりの見えない困難が続いていますが、早くまた皆様に演奏を聴いていただける日が訪れることを祈っております。



キム ジュンヒョン KIM Junhyung

Q①: コンクール後、ミュンヘン音楽演劇大学を卒業しました。現在はミュンヘンで修士課程の勉強をしています。コンクール後も大きな変化はなく、一生懸命に練習したり、レッスンを受けたり、いくつかコンクールに応募したり、友達と出かけて遊んだりしています。

Q②: 多くの音楽家がSNSやYouTubeでライブ演奏を公開しています。オンラインコンクールもあります。音楽に情熱を傾けている人たちが本当にたくさんいるのだなと痛感します。自分は普段できない趣味に取り組んでいます。最近では写真を撮ったりしています。そうするとたくさんのインスピレーションが湧いてくるのです。とにかく、今、頑張っています。

Q③: もう1年経ってしまったのです。仙台で演奏できて本当に良かったです。今でも思い出すと、その時の感動が蘇ってきます。皆様のおかげで、思う存分楽しんで演奏することができました。ありがとうございます。また仙台で演奏する機会が巡って来ることを楽しみにしています。皆さん、仙台でまたお会いしましょう。待っていてください。 *私が撮った写真を添付しました(SIMC HPIにてご覧いただけます)



エリアス・ダビッド・モンカド Elias David MONCADO

Q①: コンクール前までは、コンサートを行うこと、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学でピエール・アモイヤル教授のもとで学ぶこと以外には関心がありませんでした。その1年前には、17歳でAレベルを終了して、ヴァイオリンの練習と演奏に没頭していました。その頃ドイツやヨーロッパで行われている多くの国際コンクールで受賞を果たしていたのですが、仙台国際音楽コンクールに強い魅力を感じていました。それは他のコンクールにはない特徴ある課題曲やプログラムで構成されている点です。

それに当時は日本に行ったことがなかったので、新しい国や文化を知るにもちょうどいい機会になると思いました。第7回仙台国際音楽コンクールは私が参加したコンクールとしては最大級のものでした。コンクールに出場することで、芸術家としての成長を自覚できました。とても短い期間に、とてもたくさんの協奏曲を効率的にオーケストラと一緒にまとめ上げていくにはどうしたらよいかを学ぶことができました。オーケストラや指揮者とのコミュニケーションも以前に比べるとなお一層柔軟な対応ができるようになったと感じています。仙台国際音楽コンクールで受賞後、ポーランドで開催された第5回カルロ・リピンスキ国際ヴァイオリンコンクールで歴代最年少優勝者となりました。ファイナルラウンドでバルトークのヴァイオリン協奏曲第2番を演奏しました。それは仙台国際音楽コンクールのセミファイナルで演奏した曲でした。その経験があったからこそ、ポーランドでの演奏に十分な自信をもって臨むことができました。仙台でこの曲でオーケストラと共演できたことに感謝しました。

仙台国際音楽コンクールに出場したことで、自分の目指す音楽の目標達成のため、練習にさらに力が入り、音楽的視野も広がったと思っています。

Q②: 感染拡大防止のための主な規制は、以前のような人前での演奏は禁止、旅行も禁止というものでした。大学への通学方法や、教室内の先生方との会話にも制限があります。幸いなことに、アモイヤル教授の授業を含むほとんどの科目の授業はオンラインで行われているので、新しいレパートリーを練習できています。コンサートの予定は延期されてしまったので、練習時間を増やすことができました。

6月14日にはフライブルグでロックダウン後初めて私のコンサートを予定しています。やっとお客様を目の前に、演奏を聴いてもらえるかと思うと嬉しくてたまりません。パッサリの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005 を演奏する予定です。様々な規制を受けてきたお客様が、ソリストとどのように関わりをもってくれるのか楽しみです。誰もが聴衆(お客様)の存在を当然のことと気にもしていなかったかも知れませんが、私たちは聴衆の存在の意味を、あらためて見直し尊重していくべきだと思います。

Q③: 私たちの演奏を聴いていただきありがとうございます。演奏者も、コンサートに来られたお客様もまた、とても重要な役割を果たしているのです。仙台の皆さんからいただいた大きな暖かい応援に心から感謝しています。ライブ配信を見た多くの友人は暖かいメッセージを送ってくれました。ドイツ、フライブルグよりご健康をお祈りしています。



第7回仙台国際音楽コンクール公式CD発売中!

定価: 2,640円(税込) 全国のCDショップで取扱中!!



チェ・ヒョンロク
CHOI Hyounglok
ピアノ部門優勝者

[FOCD9825]
モーツァルト: ピアノ協奏曲 卜長調 K453
*ファイナル演奏曲
チャイコフスキー: ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23
*ガラコンサート演奏曲
指揮: 広上 淳一
管弦楽: 仙台フィルハーモニー管弦楽団



シャノン・リー
Shannon LEE
ヴァイオリン部門最高位(第2位)

[FOCD9824]
バルトーク: ヴァイオリン協奏曲 第2番 Sz112
*セミファイナル演奏曲
モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 二長調 K218
*ファイナル演奏曲
指揮: 高関 健
管弦楽: 仙台フィルハーモニー管弦楽団

■お問い合わせ先/ 公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: https://simc.jp

